

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

## 2018年のスポーツイベントを振り返って

後藤 篤志

奉職以来2度目の国経研だより執筆となり、何を書こうかと頭を悩ませながら今年のスポーツ関連の雑誌やニュースに目を向けました。ご周知の事ですが、やはり今年は日大のアメフト問題に端を発し、その後もスポーツ界にとってネガティブな事件や報道ばかりの印象です。しかしこの子細については、国経研だよりNo.58にて嶋谷先生が「スポーツと道徳」というテーマで述べられていますので、そちらをご覧くださいませにします。

一方で、今年はスポーツメガイイベントが多数開催され、多くの興奮や感動を与えてくれたのも事実です。そこで、2つのイベントで創り上げられた記録や数値を基に振り返ってみる事にしました。

### 【チームワークで勝ち取ったチームパシュートの金メダル】

韓国・平昌にて開催された冬季五輪では、日本選手団が過去最高の13個(金:4個、銀:5個、銅:4個)のメダルを獲得しました。前大会(ソチ)の8個(金:1個、銀:4個、銅:3個)からも大幅にメダル数を増やしましたが、女子スピードスケートの活躍や女子カーリングチームの「もぐもぐタイム」などが話題となった大会でもありました。このスピードスケート競技において技術的・戦術的なサポートを実施しているのがJISS(日本国立スポーツ科学センター)の存在です。

今年8月に開催された日本体育学会では、スピードスケートのサポートチームがパシュート競技の医科学サポートについて報告しており、その内容を聴講する機会を得ました。JISSでは、パシュートチームの滑走軌跡及び速度を精密に計測できるシステムを用いて分析しているようです。その分析により、先頭交代時に後ろに下がる選手が速度を落としてしまうパシュート独特のタイムロスの原因や、先頭交代に時間がかかり大きな空気抵抗を受ける時間が長くなるケースが明らかになりました。それらを改善する交代方法をサポ

ートチームが現場のスタッフや選手にフィードバックしたようです。昨年度末にご退職された榊原先生の記念講義の中でも、このパシュートチームのチームワークの素晴らしさを「連動」という言葉で表現されましたが、現場と研究分野のより細かな部分における連動が今回の飛躍の一因といえるでしょう。

### 【世界的高齢化? サッカーW杯ロシア大会】

28.6歳。これは今回のW杯で日本代表が「おっさんジャパン」と揶揄された数値です。この数値が表現として適切なのか、今大会の出場国・平均年齢ランキング(6月6日時点)を比較してみました。その結果、日本はブラジルと並ぶ8位タイ(32か国中)でした。世界的に見ても、トッププレーヤーとしての年齢が高齢化している傾向はあるかもしれません。一方で、今大会ベスト4以上の成績を残したチームの平均年齢は、イングランドが26.0歳(ベスト4)、ベルギーは27.6歳(3位)、クロアチアは27.9歳(準優勝)、そして優勝したフランスは26.0歳となっていました。

平均年齢だけで述べるのは、妥当性に欠けるとのご指摘は重々承知の上ですが、これは円熟味を増した選手と新進気鋭のニュースターを連動させたチーム編成が影響したとも考えられます。ちなみに新生日本代表として3連勝を飾った森保ジャパンの平均年齢は26.3歳(10月17日時点)。まさにベテランと若手の連動が好成績を残している要因かもしれません。

スポーツや経営においても、組織運営における問題点を抽出し、解決の糸口を見出すという「チームワーク」には、適材適所の人財が必要であり、それぞれの能力や経験を連動させていく事でより良い結果を生み出す事ができるのだと考えられます。小職も経営学部という「チーム」を連動させていくための人財になるべく日々精進したいと思います。

(所員/ごとう・あつし)

### 第13回ビジネスプランコンテストを開催しました

湯川 恵子

今年も平塚祭の初日である2018年10月27日(土)10時半より、経営学部主催・平塚信用金庫後援によるビジネスプランコンテストが開催されました。出場チームのビジネス名と結果は以下の表の通りです。

表1 出場チーム一覧

NO	ビジネス名	結果
1	衣飾住 ~ハダカでオッケイ~	平塚信用金庫理事長賞
2	夢の飛び放題	奨励賞
3	New クッキング・プラトホーム	奨励賞
4	新しい社会を創る	
5	Next Beauty	
6	どこでもドアビジネス	最優秀賞
7	四技伝承 ~価値ある美しさ~	
8	reborn	優秀賞
9	デポジット制飲料販売店	

審査は平塚信用金庫から中小企業診断士の資格もお持ちの砂子祐介様、中園尚吾様のお二人と、本学からは浅海典子先生・小島大徳先生の計4名。15分の発表時間のあとに10分間の質疑応答が行われます。会場の司会進行は大庭絵里先生。

審査基準は3つのパートに分かれており、大胆にニーズのあるビジネスを発想する「I 事業内容の評価」に多く傾斜配点されています。また学生たちが苦手とする財務については、「II 経営能力・実現可能性の評価」のパートで審査されます。損益計算書と貸借対照表を作成することで、ビジネスプランによりリアリティを求められている点も日ごろの学習成果の総合力が試されるといえます。

表2 審査基準

I 事業内容の評価 (合計24点)	
1.	ビジネスやマーケット等の「新規性」「独創性」
2.	ニーズの把握度
3.	ニーズの規模と発展可能性
II 経営能力・実現可能性の評価 (合計15点)	
1.	財務計画の公開度
2.	経費積算・収入見込など財務予測の正確性
3.	事業運営の実現可能度
III プレゼンテーションと質疑応答の評価 (合計6点)	
1.	表現力・発表力
2.	質疑応答の能力



【緊張感あふれる1-249教室】

今年の「ビジコン」の特徴は、ずばり「出場チーム数」と「1年生チームのチャレンジ」といえます。9チームのエントリーに、例年よりも時間を繰り上げスタート。今年は、1年生チームの挑戦を受け、例年3年生が多く出場するコンテストに良い緊張感が生まれました。残念ながら1年生チームの「デポジット制飲料販売店」は受賞にはなりませんでしたが、表彰式で講評をいただいた平塚信用金庫総合企画部長の高山雅彦様からは、「1年生はまだまだチャンスがある。毎年参加することでプランに磨きがかかること間違いなしなので、来年を大いに期待しています」とエールが送られました。

同じく講評をいただいた小島大徳先生からは、学生の熱気に驚いたこと、そして顧客のニーズをつかむことの重要性が語られました。また審査にあられた平塚信用金庫の方々からは、年々プレゼンスキルが向上している、とお褒めの言葉もいただきました。

今年の「ビジコン」では、ネットを活用したビジネスから一転、モノやコト消費を反映してリアルな体験という実感を顧客に提供するビジネス提案が多かったように感じました。学生のビジネスプランにも、現実社会のトレンドを垣間見ることができた1日になりました。



【懇親会にて参加者全員で記念撮影】

(第13回ビジネスプランコンテスト実行委員 所員/ゆかわ・けいこ)

国際経営学会主催 公開講演会  
『ようこそ!!先輩 経営学部の卒業生から仕事の現場を学ぶ・5』開催報告

泉水 英計

経営学部の卒業生だというお洒落な出立ちの若者が、後輩に向けた講演の相談に現れたのは初夏であった。研究所ではこれまでも、卒業生を招いて社会での活躍ぶりを紹介してもらおう企画をおこなってきたが、卒業生の方から開催を申し込んでくるというのは初めてだ。自己紹介をうかがって、彼の話は在校生に響くと即座に直感した。

武田段さんはシンガポール在住のフラワーアーティスト。生花を仕入れ、独自のアレンジで店舗やパーティ会場に文字通り「花を添える」のが仕事だ。訳せば華道家となろうが、特定の流派とは関係なく、それだけ自由にクリエイティブに、しかし、それゆえに組織による収入の保障なしに仕事をしている。また、シンガポールには、経済的混迷が続く日本よりも大きなビジネスチャンスがあるものの、外国人という立場でのビジネスには、政府の規制や監視、あるいは従業員との文化的ギャップの克服といった点で厳しい条件が課されている。



これらの困難を克服し、< DAN TAKEDA FLOWER & DESIGN PTE. LTD. >を拡大した武田さんは、どのような半生を歩んできたのだろうか。意外なことに、彼は地味な学生生活を送っていたらしい。自身の言によれば、勉強でもスポーツや他の分野でも秀でたものではなく、適当にアルバイトなどしながら経営学部を2003年に卒業、一般企業に就職した。転機は人員整理による解雇にあったという。20代半ばで突然に収入源を失い、雇用者への恨みは大きかったが、それならば本当に自分の好きなことをお金にしよう一念奮起、生花店へと転職した。ネガティブな感情

を切り替える潔さがピンチをチャンスに変えた。

知人からの情報だけを頼りに2008年に渡航、すぐに挫折して帰国を考えたが何とか踏みとどまった。学生時代に英語は得意

でなかったというのは謙遜ではなさそうだ。小口の顧客から始めるのではなく、ルイ・ヴィトンやシャネル、カルティエといった一流ブランドへの営業に果敢に挑んだのも彼の潔さであろう。険しい道ではあるが、そのような層で実績が得られれば、評価は一気に上昇する。コシノヒロコ氏とのコラボレーションや高島屋カレンダーの画像作品提供といった大きな仕事に繋がり、コニカミノルタの企画でアジアで活躍する日本人に選ばれ、武田氏の肖像を側面いっぱいに写したバスやタクシーが走った。

講演会場の250教室には300人以上の学生が集った。自分と正直に向き合ってフラワーアートという道を切り開き、物怖じせず、かといって自惚れず、ビジネスに邁進する先輩の話に聴き入っていた。



(所員/せんすい・ひでかず)

2018 年度 国際経営研究所主催 第 2 回公開講演会 開催報告

7月6日(金) 本学経営学部出身である株式会社栗田商会 代表取締役社長 栗田武明氏による公開講演会『社会人そして経営者とは』が開催されました。講演会では、卒業後、最初の就職先での様々な試練を如何に乗り越えたか、その後現在の会社の代表取締役社長に就任してから日頃心掛けていることなどを語っていただきました。

70年にわたって事務用品を販売してきた栗田商会は、時代の流れである「AI」「IoT」などを積極的に取り入れるだけでなく、設立当初からの基盤である顧客との対話を大切に、細かなニーズに対応して信頼を得ることで、地元にはなくてはならない企業として成長し続けています。同じ商品に対していかに付加価値を付けられるか、



その付加価値となるアイデアを様々な角度から提案できるよう営業力を磨くことが重要であり、そのために日頃からアンテナを張って見識を深めそれを営業に結びつけられるよう力を磨くこと、それは大学生の今だからこそできると力強くご講演頂きました。また、経営者として風通しを良くし社員のモチベーションアップにつながるための様々な工夫、気軽に意見の言い合える環境づくりを行うなど人を動かす大変さもお話いただきました。その後の質問コーナーでも一つ一つ丁寧にお答えいただきました。身近な卒業生の講演は今後学生が進路を決める上で大いに参考になったことと思います。

国際経営研究所と  
総合理学研究所は  
開設 30 周年へ



【国際経営研究所からのお知らせ】

❖ 公開講演会開催予定

(2018 年度第 3 回目)

日 時：2018 年 12 月 14 日(金) 11:00～12:40

場 所：湘南ひらつかキャンパス 6-210

テーマ：『女性も活躍できる社会を目指して』

講 師：本学卒業生 2 名予定

❖ 協力／後援行事

学内講演会

(講演:平塚信用金庫)11月29日(木)開催予定

(講演:平塚税務署)12月13日(木)開催予定

❖ 地域連携

平塚市産業活性化セミナー後援

❖ 国際経営フォーラム刊行

➤ 国際経営フォーラム 29 号

12 月下旬発行予定

❖ 2019 年度共同研究プロジェクトおよび客員研究員の募集について

2019 年度開始のプロジェクトを 1 月頃募集します。詳しくは配布資料をご覧ください。

編集後記

59 号をお届けします。国際経営研究所の活動についての報告と合わせ、経営学部の在校生と卒業生の活動も紹介いたしました。御寄稿下さった所員の皆様に御礼申し上げます。(Y)